令和３年度　ネクタリン病害虫防除暦

ＪＡ佐渡もも・ネクタリン倶楽部

【令和2年12月10日現在の登録内容】

回数	散布時期	作業暦	主な対象病害虫	１０a散布量成木(SS)(ﾘｯﾄﾙ)	薬剤名　散布濃度	収穫前使用時期	使用回数	水100Lあたり薬量	使用上の注意
1	３月上中旬 発芽前	仕上げ剪定 (せん孔細菌罹病枝の剪除)	せん孔細菌病・黒星病 灰星病・縮葉病	300	チオノックフロアブル500倍	30	5	200 ml	・チオノックフロアブルとハーベストオイルに替えて、石灰硫黄合剤７倍（発芽前）単用散布でも良い。 ・温暖無風の日にていねいに樹全体を洗い流すように散布する。
			カイガラムシ類		ハーベストオイル　50倍	発芽前	－	2000 ml	・いぼ皮病の発生が診られる時は、患部を削りトップジンMペーストを塗る。（トップジンMは果樹類で登録有り）
2	４月中旬 開花前 （１～２部咲）、展葉期	（摘花）	せん孔細菌病、縮葉病	300	ICボルドー412　30倍	－	－	3333 g	・展葉後の散布は薬害を生じるので、散布時期を厳守する
			ハマキムシ類 シンクイムシ類		ダーズバンＤＦ　3000倍	14	2	33 g	・せん孔細菌病春型病斑をみつけたら、切除し処分する。
3	４月下旬 落花直後	除草	せん孔細菌病、縮葉病	300	ICボルドー412　50倍	－	－	2000 g	**・新葉の薬害が懸念されるので、ICボルドーは５０倍とする。**
			アブラムシ類、ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ、ﾊﾏｷﾑｼ類、ｶｲｶﾞﾗﾑｼ類、ｼﾝｸｲﾑｼ類		ｻｲｱﾉｯｸｽ水和剤　1000倍	21	2	100 g	・黒星病対策が必要な場合はｽﾄﾛﾋﾞｰﾄﾞﾗｲﾌﾛｱﾌﾞﾙ2000倍（前日、3回）を散布する。
臨時	５月上旬		コスカシバ防除のフェロモン剤､スカシバコンＬを１０a当たり４０～１００本取り付ける。						
4	５月上旬 落花10日後	新梢管理 （５葉摘芯） 予備摘果 （満開２週間後）	せん孔細菌病・黒星病 灰星病・縮葉病	500	チオノックフロアブル500倍	30	5	200 ml	
			ｱﾌﾞﾗﾑｼ類、ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ、ｼﾝｸｲﾑｼ類、ｶﾒﾑｼ類、ﾓﾓﾁｮｯｷﾘｿﾞｳﾑｼ		ｽﾀｰｸﾙ顆粒水溶剤　2000倍	前日	3	50 g	
5	５月中旬	除草 新梢管理 （摘芯）	せん孔細菌病	400	ﾏｲｺｼｰﾙﾄﾞ　1500倍	28	5	66 g	・ｶｲｶﾞﾗﾑｼ類の多発園地では、アプロードフロアブル 1,000倍（7日/2回）を単剤散布する。（カイガラムシの孵化時期は幅があるので、遅れる状況によっては5月下旬頃の散布に切り替える） ・早生種がある場合は収穫時期からさかのぼり散布が遅れないように注意する。 ・ﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ、ﾊﾏｷﾑｼ防除に交尾阻害フェロモン剤として、コンフューザーMMを100本/10aを取り付ける。
			ハマキムシ類、コスカシバ シンクイムシ類 モモハモグリガ		ｻﾑｺﾙﾌﾛｱﾌﾞﾙ10　5,000倍	3	2	20 ml	
			展着剤		アビオンE　1000倍	―	―	100 ml	
6	５月下旬	防蛾灯設置	せん孔細菌病・黒星病 灰星病・縮葉病	500	チオノックフロアブル500倍	30	5	200 ml	・早生種がある場合は収穫時期からさかのぼり散布が遅れないように注意する。
			ｱﾌﾞﾗﾑｼ類、ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ、ｼﾝｸｲﾑｼ類、ｶﾒﾑｼ類、ｱｻﾞﾐｳﾏ類		ﾓｽﾋﾟﾗﾝ顆粒水溶剤　4000倍	3	3	25 g	
			展着剤		アビオンE　1000倍	―	―	100 ml	
7	６月上旬	本摘果 （満開４０日後） 硬核期 （袋かけはじめ）	せん孔細菌病	500	ﾏｲｺｼｰﾙﾄﾞ　1500倍	28	5	66 g	・早生種への防除に注意！（この時期は、早生種の収穫時期に気を配り、薬剤散布は灰星病対策、ハダニ対策を重点とし行う） 主力品種は通常に防除する。
			ｱﾌﾞﾗﾑｼ類、ｼﾝｸｲﾑｼ類、ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ		ｱｰﾃﾞﾝﾄ水和剤　1000倍	前日	3	100 g	
			展着剤		アビオンE　1000倍	―	―	100 ml	
8	６月中旬	防蛾灯設置 袋かけ終了	せん孔細菌病・黒星病・灰星病	500	デランフロアブル　600倍	14	2	166 ml	・早生種への防除に注意！（この時期は、早生種の収穫時期に気を配り、薬剤散布は灰星病対策、ハダニ対策を重点とし行う。） ・主力品種は通常に防除する。 ・デランフロアブルに替えて、チオノックフロアブル　500倍（30日/5回）を使用しても良い。
			ｱﾌﾞﾗﾑｼ類、ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ、ｼﾝｸｲﾑｼ類、ｶﾒﾑｼ類、ﾓﾓﾁｮｯｷﾘｿﾞｳﾑｼ		ｽﾀｰｸﾙ顆粒水溶剤　2000倍	前日	3	50 g	
			展着剤		アビオンE　1000倍	―	―	100 ml	
9	６月下旬	除草	せん孔細菌病	500	ｽﾀｰﾅ水和剤　1000倍	7	3	100 g	
			ハダニ類、モモサビダニ		コロマイト乳剤　1,000倍	7	1	100 ml	
			展着剤		アビオンE　1000倍	―	―	100 ml	
10	７月上旬	支柱立て	せん孔細菌病・黒星病・灰星病	500	デランフロアブル　600倍	14	2	166 ml	・早生種への収穫前日数に注意！（この時期は、早生種の収穫時期に気を配り、薬剤散布は灰星病対策対策を重点とし行う） 主力品種は通常に防除する。 ・カイガラムシ多発の場合はコルト顆粒水和剤2,000倍（前日/3回）を追加散布する。 ・デランフロアブルに替えて、チオノックフロアブル　500倍（30日/5回）を使用しても良い。
			ｱﾌﾞﾗﾑｼ類、ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ、ｼﾝｸｲﾑｼ類、ｶﾒﾑｼ類、ｱｻﾞﾐｳﾏ類		ﾓｽﾋﾟﾗﾝ顆粒水溶剤　4000倍	3	3	25 g	
11	7月中旬	早生種収穫	黒星病、ﾎﾓﾌﾟｼｽ腐敗病、灰星病	500	ナリアＷＤＧ　2000倍	前日	2	50 g	・ﾓﾓﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ多発園ではテルスターフロアブル3,000倍（前日/2回）を加用散布する。 ・早生種への防除に注意！（この時期は、早生種の収穫時期に気を配り、薬剤散布は灰星病、ハダニ対策対策を重点とし行う） ・主力品種は通常に防除する。
			ハダニ類		ﾀﾞﾆｻﾗﾊﾞﾌﾛｱﾌﾞﾙ　2000倍	前日	2	50 ml	
12	7月下旬 収穫期防除	早生・黎明種収穫期	黒星病、灰星病、ﾎﾓﾌﾟｼｽ腐敗病	500	ｵｰｼｬｲﾝ水和剤　2000倍	前日	3	50 g	・除袋後、降雨後の散布を必ず行う。また、灰星病の罹病果実は埋めるもしくは園外に持ち出し処分する。
臨時	8月上旬 収穫期防除	黎明収穫期	黒星病、灰星病	500	ﾌﾙｰﾂｾｲﾊﾞｰ　1500倍	前日	3	66 ml	
13	収穫後防除	夏剪定、元肥、芽接ぎ	せん孔細菌病、縮葉病	500	ICﾎﾞﾙﾄﾞｰ412　30倍	―	―	3333 g	・ﾊﾏｷﾑｼ類が多発した場合はダーズバンDF 3000倍(14日/2回)を加用する。 ・この時期のボルドー散布は必ず行う。（せん孔細菌病対策として、展着剤アビオンE1,000倍加用する。）
14	９月中旬	土壌改良	せん孔細菌病、縮葉病	500	ICﾎﾞﾙﾄﾞｰ412　30倍	―	―	3333 g	・この時期のボルドー散布は必ず行う。（せん孔細菌病対策として、展着剤アビオンE1,000倍加用する。）
臨時	収穫後～発芽前	コスカシバ対策	コスカシバ	200	トラサイドＡ乳剤　300倍	発芽前	3	333 ml	・発芽後散布は薬害の恐れがあるので、発芽前使用を遵守する。なお、コスカシバ被害箇所を削り取ってからの散布が効果的である。 ・トラサイドＡ乳剤に替えて、ガットキラー乳剤100倍（休眠期/１回）でも良い。

【薬剤散布における注意事項】（必ず守ってください）

（注1）
農薬の登録外使用は法律で禁止されています。上記以外の農薬使用についてはJAまたは関係機関にご相談してください。
周囲作物への農薬飛散防止に努めましょう。（他の農産物に農薬がかからないよう注意しましょう。）
農薬使用については、容器等にあるラベルの内容を確認・遵守しましょう！
散布作業はマスク、手袋等安全防除衣を着用するとともに、無風の涼しい日に実施しましょう。
防除は生育や病害虫の発生予察に注意して適期に実施しましょう。
園地環境（防風樹の整備・草刈りの徹底）をよくしましょう。

（注2）
薬剤混用の順序（水和剤混用の場合）　水 → 展着剤 → 殺菌剤 → 殺虫剤
薬剤混用の順序（乳剤混用の場合）　水 → 乳剤
薬剤混用の順序（フロアブル剤、水和剤混用の場合）水 → フロアブル剤 → 水和剤
※ボルドー液の場合はボルドー液調整後に展着剤→殺虫剤の順に混用しましょう。

【展着剤】（せん孔細菌病対策としての薬剤効果向上のための展着剤）

展着剤名	有効成分と特性	散布倍率	水100Lあたり薬量	注意事項
ﾈｵｴｽﾃﾘﾝ	ﾎﾟﾘｵｷｼｴﾁﾚﾝｱﾙｷﾙﾌｪﾆﾙｴｰﾃﾙ系（界面活性剤）	5000～20000倍	20～5ml	本剤を先に溶かしてから薬剤を希釈する（最初に入れる）
◎アビオンＥ	パラフィン展着剤（乳化性と表皮保護にすぐれる）	1000倍	100ml	本剤先に溶かしてから薬剤を希釈する（最初に入れる）
ハイテンパワー（クイックタッチ）	ﾎﾟﾘｵｷｼｱﾙｷﾚﾝ脂肪酸ｴｽﾃﾙ30%（乳化にすぐれ泡立ちが少ないが、耐雨性に劣る）	5000～10000倍	20～10ml	本剤を先に溶かしてから薬剤を希釈する（最初に入れる）
ブレイクスルー	シリコーン系：ﾎﾟﾘｵｷｼｱﾙｷﾚﾝｵｷｼﾌﾟﾛﾋﾟﾙﾍﾌﾟﾀﾒﾁﾙﾄﾘｼﾛｷｻﾝ80%（拡展性と速乾性が高く汚れが少ない）	5000～10000倍	20～10ml	薬剤調整後に本剤を加え攪拌する（最後に入れる）

【葉面散布剤肥料】（せん孔細菌病対策としての植物体内の強化のための資材）

展着剤名	保証成分	散布倍率	水100Lあたり薬量	特徴と注意事項
トップハーベスト 富士見物産（埼玉農耕）	乳酸菌・酵母菌・納豆菌・ミネラル・水	500～1000培	200～100ml	菌体外酵素やアミノ酸、ビタミン、ホルモン、核酸等を豊富に含有し、食味向上等、食物生育環境の改善効果あり。5月～収穫前までの薬剤散布に合わせたタイミングでの使用を薦めます。※ｱﾙｶﾘ性農薬とは混用できません。
ケイ太君 富士見物産（埼玉農耕）	ケイ酸94.6%、ｱﾙﾐﾆｳﾑ3.38%、ﾁﾀﾝ、鉄等	3000～5000倍	33～20g	ケイ酸を主成分とした植物ﾐﾈﾗﾙ（海草ｹﾙﾌﾟ）病害虫への抵抗性発現、光合成活性に効果あり。トップハーベストと合わせて5月～収穫前までの薬剤散布に合わせたタイミングでの使用を薦めます。